

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 辻 裕一 所属：敦賀市立黒河小学校 記録日：2021年2月19日

キーワード： 学習課題に取り組むことへの支援

【対象児の情報】

- ・学年 小学3年生 男児
- ・障害と困難の内容 ◎読み書き困難 ， 注意欠損多動性障がい（AD/HD）疑い

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ① 「これならできそう」と感じることで、課題に向かう姿勢を身につける。
 - ② 「これでやろう」自分に合った学び方を探る。
- ・実施期間 2020年6月1日から2021年2月19日まで
- ・実施者 辻 裕一
- ・実施者と対象児の関係 特別支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・読み書きに困難があるため、学習活動に抵抗感をもっている。
- ・家庭学習（宿題）に対して、自発的に学習を進めることが難しく、習慣化していない。
- ・「持ち物の整理整頓・管理」は苦手であり、連絡帳が出ない。
- ・「こだわり、好き嫌い」はみられない。
- ・対人関係は良好で交流学級でも他の児童とのトラブルは少ない。
- ・「集中力」にかける面はあるが、離席などの行動は見られない。

国語の実態

<読み書き>

- ・黒板を書き写すことや作文を書くことに抵抗がある。
- ・音読は読み飛ばしをしたり、漢字やカタカナの部分でつまずいたりとたどたどしい。

<聞く・話す>

- ・落ち着いて話を聞くことが難しい。
- ・自分の考えをまとめて話すことが難しい。

算数の実態

<計算>

- ・たし算やひき算の計算では、指を使う場面がある。
- ・九九は1から9へと順番どおりなら5の段まで唱えることができる。6の段以降がたどたどしくなる。

<文章題>

- ・文章を読み取って、式を立てることが難しい。

上記のような、学習に対するつまずきに対して、「何をすればいいのか」「どのように取り組めばいいのか」を支援し、取り組む意欲「やってみるか」を引き出したい。

「めんどくさい」「わからん」



「何を」
・「見通しを持たせる」
・「パターン化」
・「ゲーム的要素」

「どのように」
・「つまずき部分の補完」
・「単元導入の興味関心づけ」
・「タブレット（アプリ）の利用」

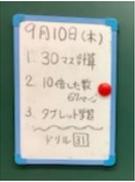
やる気



○活動の具体的内容

①「これならできそう」と感じることで、課題に向かう姿勢を身につけさせるために

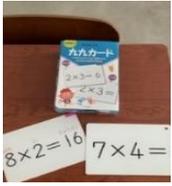
・見通しをもたせる。

教材	学習内容	○よかったこと ※A児の様子
 <p>ミニ黒板</p>	授業の展開を知る	<p>○ミニ黒板で「授業の展開」や「(ドリル問題 10 問というような)量」「時間」を知ることで、見通しをもつことができた。</p> <p>※終わりが見えることで、「これ (内容・学習量・時間) ならやろう」と課題に向かう姿勢が見られるようになってきた。</p>

・授業や家庭学習のパターン化

教材・アプリ	学習内容	○よかったこと ※A児の様子
 <p>30 マス計算 プリント</p>	算 数 九九の学習	<p>○毎時間の初めに九九を 3 段ずつ計算 (30 マス計算) することを習慣化したことで、授業への取りかかりに対する抵抗が小さくなった。</p> <p>※「30 マス計算への取り組み」に、一人で取り組めるようになった。</p> <p>※九九が定着し、各段ばらばらでも正確に唱えることができたようになった。30 マス計算を取り入れたところは、1 段をやり終えるのも 5 分 10 分かかるほどであった。アプリ等の支援により、速いときには 1 分 30 秒ほどで 3 段を終えるようになった。</p>
 <p>『ひとコマ漢字』</p>	漢 字 学び直し	<p>○漢字の学び直しのために、「いつもの」とパターン化して家庭学習で使用。</p> <p>※漢字学習に対して「わからん」「むずかしい」という言葉がでることが少なくなっている。</p>

・ゲーム的要素をもたせた学習

教材	学習内容	○よかったこと ※A児の様子
 <p>九九カード</p>	算 数 九九の学習	<p>○九九カードを見せて、正解したカードを本人に渡すようにした。苦手な段・問題がわかり、繰り返し取り組むことができた。</p> <p>※「ゲット!」と楽しみながら学習に取り組み、「またやろう」とせがんでいた。</p>
 <p>ローマ字カード</p>	国 語 ローマ字学習 導入 (アルファベット)	<p>○一人 1 セット (A~Z) を机の上に並べて、カルタのようにして、音とのつながりを確認できた。</p> <p>○絵札 (取り札) の絵と連想させてことわざを覚えることができた。</p>

 <p>「ことわざかるた」 (インターネットサイト『ちびむすドリル』より)</p>	<p>ことわざ学習</p>	<p>※他学年の児童と、競いながら楽しみ、ローマ字学習への関心が高まった。</p> <p>※一日に2～3枚を覚えるように、家庭学習としたが、意欲的に取り組んで2週間ほどで、すべて覚えることができた。</p>
 <p>『ねずみタイマー』</p>	<p>タイマーアプリ</p>	<p>○残り時間が視覚化され、わかりやすい。</p> <p>※「りんごが食べられるのを、とめるのがおもしろかった。」と、時間を残そうと集中して計算問題や書き取りに取り組むことができた。</p>

②「これでやろう」自分に合った学び方を探るために

対象児童（A児）は国語（書写）、算数の週12時間を特別支援学級で学習している。マンツーマンで指導できる場面では、声かけによる注意喚起や、できたときの褒め言葉で授業への集中を維持することができた。前期は個別の学習時間（週3～4時間）に、後期は家庭学習を中心にタブレット（アプリ）を活用した。

国語

1 タブレット（アプリ）の活用

<漢字>

学年相当の教科書を使いながら、つまづき部分を補強していく形で学習をした。1年生で学習する漢字の読み書きが未定着のため、漢字の読み書きに支援が必要であった。そこで、有効なアプリを選び、学習に取り入れた。アプリは、ヒントが出たり、止めはね払い、書き順が直接学べたりする点が有効であった。また、反復練習に対しても意欲的に取り組む姿が見られた。

<表現>

文章を書く場面において、書かないといけないことはわかっているし、伝えたいことももっているが、文字化することが苦手であった。そこで、今年度はアプリの『えにつき』を活用して、文字を打つことで表現することに取り組んだ。まだ、ローマ字入力・かな入力に慣れていないために、短いものであるが、「紙に書きなさい」では、時間だけが過ぎていっていたことからみると、表現することに関心を持たせることができたと思う。

アプリ名	学習内容	○よかったこと ※A児の様子
 <p>『小学3年生漢字練習ドリル』</p>	<p>漢字 学び直し なぞり練習</p>	<p>○書き順にそってなぞることができる。</p> <p>○やり終えた漢字はロックが解除され、終わったことがわかるようになっているので、達成感を感じられる。</p> <p>※ドリルと同じ反復練習でも、タブレットに指やスタイラスペンで書く方が意欲的に取り組む姿がみられた。同じ時間でもドリルだと新出漢字4字程度が精一杯だが、アプリでは10字書くこ</p>

		とができた。
 『ローマ字ロゴ』  『ことわざロゴ』	ローマ字 ことわざ	○対決形式で問題が出題されるためゲーム感覚で取り組むことができた。 ○答え方が四択またはキーボード入力と2パターンあるので、自分の力にあわせて取り組むことができた。 ※ワークの単調な反復練習は面倒くさがっていたが、アプリでは「楽勝!」と、繰り返し取り組んでいた。 ※「ことわざかるた」で覚えたことわざを大きな声で答えていた。
 『デイジー教科書』	教科書の音声 読み上げ	○文字をハイライトで示したり、読むスピードを調整したりできる。 ※読み上げを聞いてから音読すると、つまずきが減った。
 『えにっき』	写真やイラストで絵日記を作成できるアプリ	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1月2日(土) お正月</p>  <p>あけましておめでとうございます。 お年玉をもらいました。 そのあとぼくは、外に出て雪合戦をどかしました。 そのあと勉強をしました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2月19日(金) 六ねん生をおくるかい</p>  <p>六ねん生を送る会 さいごにかすたねつ とをしました。😊😊 がんばった。😊😊</p> </div> </div> <p>冬休みの課題で書いたもの 行事のあとに書いたもの</p> ○「学校であったことを学校で書いて、お母さんに見せる」「家に帰ってから、やったことを書いて提出する」ことによって、学校と家庭がつながることができた。 ※書くことが苦手なA児であるが、「しゃしんをいれるのがおもしろかった」と写真や絵文字を取り入れ、日記を書いてきた。

2 パソコンやインターネット配信の番組、「リーディングトラッカー」など、教材・教具を工夫して「読み・書き」の支援をおこなった。

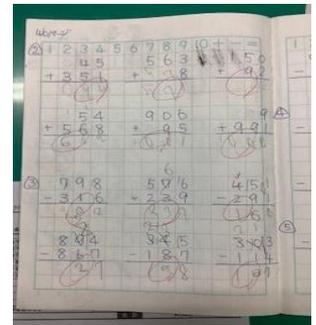
アプリ以外の取り組み	学習内容	○よかったこと ※A児の様子
 タブレットでローマ字打ち	ローマ字	○タブレットでの文字入力には、ローマ字打ちが一つの手段となる。その実用性を感じていた。単調な反復練習だけでなく、学ぶ意味を伝えることで、意欲を高めることができた。 ※自分の名前などを、ローマ字表を見ながら打ち込んでいた。
「ひょうたんからコトバ」(『NHK for School』)	故事成語 ことわざ	○ことわざ・故事成語の成り立ちや使い方がアニメーションで紹介されている。 ※アニメを楽しみながら、ことわざの意味を確認していた。

<p>サンタ作文</p>	<p>作文</p>	<p>○「クリスマスにプレゼントを配るサンタさん。12月以外は何している?」という題に対して、興味を持って取り組むことができた。</p> <p>※「1月は……」と楽しそうに思いついたことを話し、その後、作文に積極的に取り組む姿が見られた。</p>
 <p>リーディングトラッカー</p>	<p>音読</p>	<p>○使うことで読む行がしぼられ、集中して文章を追うことができる。</p> <p>※読む行だけに集中できるようで、文章をスムーズに読むことができた。</p>

算数

1 「やってみるか」を引き出すために

算数の授業では、計算ができなかったり、筆算の解き方がわからなかったりするからやらないのではなく、計算式をノートに書くときの文字の位置関係や大きさを把握すること、問題と問題の間隔をとることが苦手だと感じた。そこで、授業前に教師が計算問題をノート(右写真)に書くことにした。すると、「楽勝!」「かんたん」と言って取り組むことができた。



2 タブレット (アプリ) の活用

算数でも「クリアすると次へ進む」「正解してポイントをゲットするとキャラクターが進化する」など、各アプリのゲーム的要素はドリルよりも楽しく、達成感を感じるもので、集中して取り組む姿につながっていた。

アプリ名	活用内容	○よかったこと ※A児の様子
 <p>『九九のトライ』</p>	<p>九九の学習</p>	<p>○九九の計算「のぼり・くんだり・ばら」を選択できる。</p> <p>※ポイントによってキャラクターが進化するので、それを目的に取り組むことができた。</p>
 <p>『楽しい小学校 3年生算数』</p>	<p>筆算</p>	<p>○当てはまる位の数字を選択するだけでよい。</p> <p>※正解するたびに☆をゲットでき、数問をクリアすると次のステージへとすすむようになっているので、楽しみながら取り組み、解く問題数が増えた。</p> <p>※3けたの数のたし算・ひき算の筆算を自分の力で解くことができた。</p>

 <p>『ビノバ算数 小学2年生』</p>	<p>時こくと時間</p>	<p>○四択クイズ形式で、モンスターをゲットする楽しさがあり、ドリル代わりに使える。</p> <p>※「時刻と時間」についての理解度は高く、アプリの活用でさらに定着につながった。</p> 
 <p>『わかる！算数 小学3下』</p>	<p>小 数</p>	<p>○アニメーションコーナーで単元のポイントをつかみ、ドリルコーナーで問題を解き、理解を深めることができる。</p> <p>※間違えた問題をくやしがりながらも、繰り返し取り組み、できたときに「やったあー」と喜んでいた。</p>

【報告者の気づきとエビデンス】

学習面

国語の変容

<読み書き>

- ・黒板を書き写すことや作文を書くことに抵抗があるが、題材やアプリを活用し、少しずつ文を書くようになってきている。
- ・音読は、デージー教科書やリーディングトラッカーの活用で、読み飛ばしやつまずを減らすことができるようになってきている。
- ・アプリを使って、漢字を書く学習に取り組み、漢字の定着につなげてきている。

算数の変容

<計算>

- ・たし算やひき算の計算で、指を使うことが少なくなっている。
- ・九九が定着し、各段ばらばらでも正確に唱えることができるようになった。

<文章題>

- ・文章を読んであげると、式を立てることができる。

<学習に向かう姿勢が向上>

○タブレット（アプリ）を使うことで「たのしい・できた」を感じており、興味関心をもって問題に繰り返し取り組んでいる。

○「漢字だからこのアプリだな」というパターン化・定番化した学習によって、「これをいつものようにするんだ」と自分から取り組むようになってきた。

<「できた」が自信に>

○漢字コンテストでは、家庭学習で使用している『ひとコマ漢字』から40字出題（1年生漢字）。最初に書けたのは8字であったが、家庭学習で繰り返し取り組み、34字書けるようになった。間違った字は「貝」が「具」、「上」を「±」というような間違いであった。

○算数コンテストでは、「わり算」や「筆算のたし算ひき算」などの範囲を、アプリの『小学3年生算数』などを使って復習。本番は90点の「合格賞」をとり、算数に対して、自信を持つようになってきた。

<本人の感想>

日ごろからゲーム機などに親しんでいるA児にとって、タブレットは直感的に操作できるもので「タブレットをつかったじゅぎょうはたのしい」と感想に書いている。

算数では、教科書で学習したあとに、「タブレットでやろう」とアプリを開き、その単元の確認に使うよ

うになってきている。また、国語では、漢字の反復練習に取り組み、漢字が書けるようになったことに対して、「かんじをおぼえられた」と達成感を感じていた。

生活面

<連絡帳を渡すことができた>

学年はじめは「連絡帳」の提出ができなかったが、連絡帳をより目立つように、ジッパー付きビニール袋（右写真）に入れるようにした。A児が袋のまま保護者に渡すようになり、保護者の目に「連絡帳」が触れるようになり、学校での様子が伝わるようになった。



保護者は目を通した印として印鑑を押して、翌朝には提出できるようになった。気がかりなことがあったときには保護者からも書き込みがあり、保護者とのつながりが深まった。

家庭学習（宿題）

<1学期 宿題未定着>

家庭学習（宿題）の取り組みに対して、「無理なくやりきれぬ量を」と考えて出すようにしていたが、課題への取り組み・提出にはつながらなかった。「書く・読む」ことを苦手としているA児に対して、分量だけでなく、「たのしい・できる」を味わえる課題が必要であった。

<2学期 タブレット（アプリ）の活用で宿題定着>

家庭学習（宿題）として、連絡帳の提出が習慣化してきたので、家庭と条件（一日1時間、夜8時までの設定）を決めて、タブレットを持ち帰らせることにした。そして、「漢字アプリで○文字練習してくる」「授業で学習した内容を算数アプリでクリアしてくる」「『えにつき』を書いてくる」というように、やりきれぬ量を出すことで、課題への取り組みが定着してきた。保護者も「タブレットを使うことで、毎日、自分から進んで宿題に取り組めたかな」と変容を感じている。

さらに自信を持つようになってきた算数に対しては、アプリだけでなく、ノートに出題した計算問題にも取り組むようになり、学校で学んだことが家庭学習へとつながるようになってきている。

交流学級での変容（交流学級担任より）

1学期の始めのころは、授業中の課題や感想などの提出ができなかったが、現在は、支援者（T2）に助けってもらったり、A児に合わせた課題・分量にしたりすることによって、自分なりの答えや考えを書いて出すようになった。

また、当初は興味のあることに手を挙げ反応し、当てられないと怒ることが多かった。しかし最近は、他で認められる場面ができてきたためか、文句を言わず待つことができるようになってきている。

忘れ物については、忘れることもあるが、「連絡帳に書きなさい」と言うと、連絡帳を特別支援学級に取り行って、書くようになっている。連絡帳を意識しているようだ。

特別支援学級へ行くことに対しては、チャイムが鳴ると「(特別支援学級の教室へ) 行っていいですか。」と聞いて、遅れないように気をつけている姿が見られる。

【今後に向けて】

この一年間の研修で、児童の力を伸ばすには、「児童と向き合い、児童をより理解することが大事だ」ということを改めて感じた。

A児は学年相応の理解力をもっているため、来年度も社会と理科は交流学級で、国語と算数は特別支援学級で引き続き学習することで、さらに力を伸ばしていきたいと考えている。

国語

<漢字の定着を図る>

漢字や読解などの学習の積み残しを、タブレット（アプリ）を使って補完してきたが、今後は以下のような支援を加えて、A児にとって最も効果的な方法を探り、漢字を身につけさせたい。

- ・タブレット（アプリ）の活用（正しい漢字を検索し、拡大して表示、確認させる。）
- ・間違い探しクイズのようにして、よく見ることで違いに気づかせる。
- ・「貝は目にてん・てん」、「具は目・いち・てん・てん」というように唱えて覚えさせる。
- ・「貝がら」「道具」など生活の中で、熟語として使いながら覚えさせる。など

<表現することの楽しさを味わわせる>

自分の思いや作文を書く・表現する力を伸ばしていきたい。話を聞くことや手書き入力・音声入力などで思いを拾い、タブレット（アプリ）を利用し、文字に変換するというような方法を使いながら、表現することのおもしろさを感じさせたい。

算数

<自信をやる気に>

学習を支えるツールとしてタブレット（アプリ）を活用してきた。「アプリで学習することがたのしい。」から、「算数がわかったのしい。」に変わってきている。この自信が新たな学習意欲につながっていくようにしたい。

<自分でやってみようへ>

今年度は、計算式を教師が書くことで、学習に対して「やってみるか」を補完してきた。今後は、A児の学びのペースに合わせながらも、学年的成長に合わせて自分自身で書くことに取り組んでみようと感じさせたり、タブレット（アプリ）を活用したりする（板書やワークシートを取り込む）ことで、一人でも学ぶことができる力を伸ばしていきたい。

家庭学習（宿題）

<「できた」を、さらなる「やる気」へ>

「めんどくさい」「わからん」ということが多かったA児であるが、少しずつ計算や漢字のワークなどに自分で取り組むようになってきている。また、家庭学習も提出できるようになっている。このように、課題に向かう姿勢は少しずつ身につけてきている。「できるようになった」という変化を、A児自身にも感じさせて、自発的に取り組む力をさらに伸ばしていきたい。

交流学級との連携

<交流学級でのタブレット（アプリ）活用>

本市でも、「GIGA スクール構想」に対応し、まもなく一人一台のタブレットが導入される。そこで通常学級でもタブレットが使われることになる。社会科や理科の授業でも、タブレット（アプリ）の活用を学級担任と考えていきたい。

できた！たのしい！

これ使おう！やってみようかな

<見通しをもたせる>
<パターン化・定番化>
<アプリやPCの利用>



やる気



自信